

## 主要国際商品価格の不確実性と雇用の安定

中京大学経済学部 専任講師  
風神佐知子

### < 報告要旨 >

途上国の中には、経済をカカオ、綿、コーヒーなど一次産品の輸出に依存する国が数多くある。このような経済は、国際価格の変動が直接経済の安定に影響すると問題視され、国際価格安定の協定がとられるなど対策もとられてきた。そして今、再び、途上国ではバイオエタノールなど単一作物の作付けに動く向きがある。この動きは、再度途上国の経済や雇用の安定を損ねないのであろうか。

そこで本稿では、経済が単一輸出商品作物に依存し、その価格が国際市場で決まるとき、価格の不確実性が雇用の安定にどのくらい影響を与えているのかを分析した。国際価格が下落したままならばいずれその作物市場から撤退する。しかし価格は下落したままではないこと、すなわち価格の変動による不確実性が労働市場の不確実性となる。不確実性については、近年、従来研究されてきた金融分野のみならず、環境問題や雇用の安定においてもこの要素を取り入れた分析が行われている。

本稿では国際商品作物や途上国の中でも、詳細なデータの得られたガーナのカカオ豆を分析対象とした。現状分析後、国際価格から不確実性を計量した。これを基に、ガーナの雇用に不確実性がどのくらい影響を与えているのか、計量モデルで推計した。